人とのかかわりを重視した指導の実践
―幼児との交流活動を見据えた指導計画の工夫―

「A家族・家庭と子どもの成長」の指導において，幼児と触れ合う体験などの活動は，以前にも増して重視されている。しかし，時数や履修学年の関係で幼稚園訪問などの活動は十分に行えない実態である。また，学校規模や受け入れ幼稚園の場所，規模などにより，訪問時期や時間の調整が難航する場合も多い。そこで，訪問する方も受け入れる方も負担が少なく，双方に意義がある交流活動になるよう，年間計画を工夫し取り組んだ。

１．地域・生徒の実態と単元のねらい

本校は市の中心部に位置し，市内で一番規模が大きい中学校（学年４～５クラス）である。家庭環境はさまざまであるが，母子家庭など片親の家庭の割合が高く，祖父母との同居も少ない。幼児とのかかわりという点では，身近に幼児がいる生徒はごくわずかで，大部分の生徒は日常生活ではほとんど接する機会がない。

かかわりが少ないと，接し方に不安を感じ，苦手意識をもってしまいがちである。また，幼児が苦手な理由としては「すぐ泣く」「わがまま」「うるさい」などで，核家族で比較的自由に生活していることからくる，自分が我慢をすることへの抵抗感や幼い者への理解のなさが伺える。そこで，幼児についての調べ学習を通して幼児の実態について客観的に理解し，さらに実際に触れ合う事を通して理解を進め，良さを知り，否定的だった部分も受け入れられるようにしたいと考えた。中学生のこの時期に，ありのままの幼児の姿を受け入れさせ，かかわりを深められるようにすることは重要なことと考えた。

２．指導計画の工夫

生徒の発達段階から考えると，最上級生となった３年生での訪問・交流が望ましいが，他の内容の授業時数の関係で，３年になってから幼児の生活と家族についての学習を始めたのでは時数が不足してしまう。そこで，２年時に，自分の成長と家族，幼児の成長，生活と家族についての学習を終え，学んだことを生かして，３年時に幼児の遊び道具の製作，幼稚園訪問・交流という指導計画にした。

	学　習　内　容	時数
２年時	１　中学生になるまで	２
	２　子どもの成長	７
	①　テーマごとの調べ学習～レポート	
	②　レポート発表と補足	
	３　家庭と家族関係	３
３年時	１　幼児の遊び道具の製作	６
	２　幼稚園訪問	２
	３　交流のまとめと発表会	２

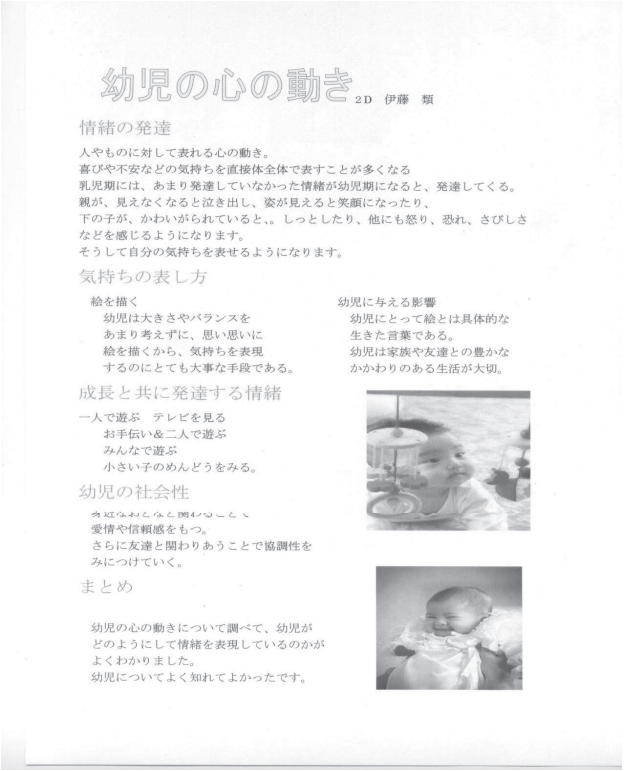
３．実践例

（１）２年時での調べ学習～「保育レポート」

幼児の成長についてテーマごとの調べ学習に取り組み，レポートを作成する。テーマは子どもの遊び，身体の発達，心の発達，生活習慣の発達，幼児を取り巻く環境の５つとし，各自が興味・関心をもったテーマを１つ選び，自分で調べる内容を決める。調べる方法は，自分の幼児期の聞き取り調査やインターネット，参考資料，ビデオの他，身近な幼児・幼児の世話をする人へのインタビューなど，各自の状況に応じて活用させた。実際に幼児の様子を各自のテーマに沿った視点で観察することも有効であるが，授業の中での訪問は調整等が難しいため，教師が幼

稚園と連携してあらかじめ写真やビデオに収めてきたものを活用している。

レポートの発表会は，テーマごとのグループで各自のレポートを元に発表資料をつくり，他の生徒に“教える”つもりで発表させた。自分たちが調べてわかったこと，大事だと思ったことを他の生徒にわかりやすく教えようとすることで，子どもの成長，生活，家族とのかかわりについて，さらに学習を深めることができた。それと同時に他のテーマについて調べた生徒にとっても，興味深く学習することができた。生徒の発表で触れられなかった部分については，教師からの補足という形で指導内容に漏れがないように配慮した。


幼児の心の動き 2D 伊藤 類

情緒の発達

人やものに対して表れる心の動き。
喜びや不安などの気持ちを直接体全体で表すことが多くなる
乳児期には、あまり発達していなかった情緒が幼児期になると、発達してくる。
親が、見えなくなると泣き出し、姿が見えると笑顔になったり、
下の子が、かわいがられていると、。しっとしたり、他にも怒り、恐れ、さびしさなどを感じるようになります。
そうして自分の気持ちを表せるようになります。

気持ちの表し方

絵を描く
幼児は大きさやバランスを
あまり考えずに、思い思いに
絵を描くから、気持ちを表現
するのにとても大事な手段である。

幼児に与える影響
幼児にとって絵とは具体的な
生きた言葉である。
幼児は家族や友達との豊かな
かかわりのある生活が大切。

成長と共に発達する情緒

一人で遊ぶ　テレビを見る
お手伝い＆二人で遊ぶ
みんなで遊ぶ
小さい子のめんどうをみる。

幼児の社会性

愛情や信頼感をもつ。
さらに友達と関わりあうことで協調性を
みにつけていく。

まとめ

幼児の心の動きについて調べて、幼児が
どのようにして情緒を表現しているのかが
よくわかりました。
幼児についてよく知れてよかったです。

保育レポート

（２）遊び道具の製作

２年時に学んだ幼児の生活や成長から，幼児の発達段階に応じた遊び道具の大切さを理解し，交流したい幼児の年齢を想定して遊び道具を製作する。ここでも幼稚園と連携し，年齢ごとのクラスの様子や園内の環境についても写真に撮らせてもらい，遊び道具をイメージしやすいようにし，製作への意欲付けとなるようにした。

（３）幼稚園訪問

訪問する幼稚園は学校から徒歩でも１５分以内で行ける場所に２箇所あり，２学級ずつ２回の訪問受け入れをお願いしている。日程を連絡調整し，お互いの都合が合う日を決め，つくったおもちゃを持参し幼稚園を訪問した。楽しみにしている生徒は多いが，かかわることに消極的な生徒もいて，はじめは話しかけることもままならない様子であったが，持参したおもちゃをきっかけに，自然と触れ合うことができるようになり，次第に生き生きとした表情で時間を忘れ，身体全体で交流するようになっていた。訪問後にとったアンケートでは，95%以上の生徒が，訪問は「楽しかった」「どちらかといえば楽しかった」と答えている。また，「また行きたいですか」の質問に対しても同様の答であった。

４．成果と課題

幼児に対して苦手意識をもち，かかわることにあまり積極的でなかった生徒も，そのほとんどが幼稚園訪問では充実した活動ができ，幼児に対する理解を深め，積極的に触れ合うことの良さを認識することができたと思う。幼児との交流はできれば数回が望ましいが，幼児の生活と家族，成長についての学習を，交流の事前学習としてとらえ，訪問先の情報を随時与えながら学習を進めることで，体験不足を少しでも補えたのではないかと思う。

今後は訪問だけではなく，幼児を学校へ招待するという形の交流も考えていきたい。